

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：35302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25285229

研究課題名(和文) 大学生の職業的資質形成の構造変容に関する比較縦断的研究 専門学修と就労経験の役割

研究課題名(英文) A Comparative and Longitudinal Study on Structural Changes of Competencies' Formations for College Students: Significances of Academic Courses and Work Experiences

研究代表者

寺田 盛紀 (Moriki, Terada)

岡山理科大学・工学部・教授

研究者番号：80197805

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：日米独韓の大学生の職業的資質(職業基礎力と職業観)の形成に関して、2013年と2015年の2時点(初年次と3年次)の縦断分析を比較分析を行った。

一部の因子尺度を除き、職業基礎力はどの国の学生の場合も向上するのに対して、職業観はむしろ後退する。国比較では、ドイツの学生の語学力、技術力、アメリカの学生の仕事マネジメント力が他より高く、日本の学生はほぼすべての尺度で低くなっている。教育的要因との関連では、ドイツやアメリカの学生の学修努力、ボランティア活動経験が目立つのに対して、日本の学生はアルバイト中心の生活になっている。インターンシップに関しては、経験率との関係で効果が確認できなかった。

研究成果の概要(英文)：We clarified the factor structural changes of students' vocational competencies and influences of career and educative activities on them through a few longitudinal follow up questionnaire studies between 2013 and 2015 in Japan, the USA, Germany and South Korea. Generally, contrastively to the developments of vocational basic abilities, vocational values withdrew in these two years. In the comparison among countries, German students show strong tendencies in the factor scales "Language skills" and "Technical skills" and American students are also higher in the scale "Job management skill" than other students. Japanese students are higher in "Self-realization orientation" and "communication skills", but they seem to rely on their life styles of part-time job centered.

研究分野：比較キャリア形成

キーワード：職業基礎力 職業観 国際比較 縦断分析

1. 研究開始当初の背景

高等教育段階の学生の職業的資質(職業能力、職業・仕事観から構成されるものとする)の形成に関する問題は、2010年の大学設置基準改訂により「社会的・職業的自立のためのキャリアガイダンス」の実施が義務づけられて以降、議論の段階から実践の段階に移行していた。

しかし、研究の分野では、この職業的資質形成の問題は一方で学校と職業の関連メカニズムの側面が、他方で「社会人基礎力」「就職基礎力」「学力」「基礎的・汎用的能力」など形式陶冶的なジェネリックスキルの側面が強調され、高等教育の主課題である専門教育や職業教育、学生自身の学修・生活活動に即した研究に十分焦点が当てられていなかった。

2. 研究の目的

そこで、総合大学生と専門・職業大学生に関して、彼・彼女らの職業選択や職業観の形成過程だけでなく、職業的能力の獲得過程にも焦点をあて、それらトータルな職業的資質形成過程の内部関連構造の変容を専門学修やアルバイトなどの生活活動の役割(教育的促進要因)との関連で実証的に明らかにすることを目的とした。併せて、各国における職業的資質形成のための諸活動の役割、関連構造の比較特性を明らかにし、我が国の高等教育段階の専門教育・職業教育及びそれと就業生活との関連のあり方を照射することを企図した。

3. 研究の方法

(1)第1に、短期高等教育機関の学生と4年制の大学生に分けて、希望職業、職業観(職業を選ぶ基準)、専門学修の履修・達成状況、職業資格や各種能力検定の取得状況、企業等での実習、課外活動、アルバイト経験、職業能力の水準(実行可能な仕事・その水準、職業的能力・基礎力に対する自己評価)などに関して、初年次と1ないし2年後の**縦断アンケート調査**を行い、それらの変化・発達、その要因を明らかにしようとした。

(2)第2に、上記の調査協力学生から若干名を抽出し、**質的調査(聞き取り調査)**を行った。定量的調査では見えない個々人の生活活動(時間記録)により、職業選択や職業観、職業能力獲得状況、その背景要因について因果分析を行う。専門学修とアルバイト等の就労経験に焦点をあてた。

(3)第3に(1)の統計的データと(2)の質的データを国別、出身高校の学科別、学部別、性別、時間軸別などの視点から分類・比較を行った。そのことを通して、おもに国別の大学の課程と学生の生活活動の持つ意味の違い、共通性を明らかにすることを試みた。

4. 研究成果

比較縦断分析に限って主な結果を示す。ま

ず、職業系学生の2013年調査と2014年調査の比較縦断研究では、第2次調査の集計に間に合わなかったアメリカ、日米韓の専門大学・職業系短期大学に相当する機関が存在しないドイツを除き、日本(1短期大学、1専門学校)と韓国(1専門大学)の3機関の学生の分析を行った。その結果、職業基礎力因子として、仕事マネジメント力、語学・情報処理力、身体運動力、技術力、コミュニケーション力の5因子、職業観因子としてはキャリア自己実現志向、安定・金銭志向、社会・貢献志向、職人・趣味志向の4因子が抽出された。職業基礎的の面では日韓3機関とも1年間の間向上的評価が有意に高まっている。他方職業観ではキャリア・自己実現志向を除くと有意に低下している。国・機関別比較では、日本の短大生(N=100) < 専門学校生(N=117) < 韓国の専門大学生(N=125)という関係が確認された。

2013年と2015年の4年制学生の縦断分析では、1回目調査の参加者(888名)を大量に失うことになったが、170名(日本N=37、韓国N=45、アメリカN=57、ドイツN=31)の2時点データを同定できた。分析の結果、職業基礎力因子、職業観因子とも職業系学生の場合とはほぼ同様の因子、因子構造が見られた。また同様に、職業観因子の得点がアメリカの学生を除き、日本、韓国、ドイツの3か国の学生共通に低下していること、他方職業基礎力因子では技術力と身体運動力を除けば他の3因子で共通に向上傾向が見られること、とくに仕事マネジメント力でアメリカの学生、語学力でドイツの学生、コミュニケーション力でアメリカと日本の学生が有意に高くなっていることが明らかになった。

研究の中心課題であったそれら基礎力、職業観と専門学修や各種のキャリア経験との関連分析(分散分析)では、アルバイト経験(「以前していた」という経験(4か国全体)が仕事マネジメント力の向上に、専門学修の努力(「努力している」「やや努力している)がドイツの学生の語学力の向上に、またアルバイト経験(「している)がアメリカの学生のコミュニケーション力の向上に、さらにボランティア活動の経験(「している)がコミュニケーション力の向上に、それぞれ有意に作用したことがわかった。肝心のインターンシップ経験はドイツを除くとどの国の学生においても経験率がきわめて低く、明確な傾向を見いだせなかった。今回の縦断調査の1つの課題として残った事柄である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

1. Lee, S.M., Terada, M., Shimizu, K., Lee, D.H. (2017) Comparative Analysis of Work Values across Four Nations.

Journal of Employment Counseling, 54(2). (Accepted in 2015, in print) (査読).

2. 寺田盛紀・山本理恵・清水和秋 (2017) 4年制大学生の職業的資質形成に関する比較縦断的研究 日本、アメリカ、韓国、ドイツ, *生涯学習・キャリア教育研究* (名古屋大学) 第13号, 23-36.
3. 寺田盛紀・イーミョンフン・石嶺ちづる (2016) 職業系短期高等教育機関学生の職業的資質形成の縦断研究—日韓3短期大学・専門学校生の比較—, *生涯学習・キャリア教育研究* (名古屋大学教育発達科学研究科附属生涯学習キャリア教育研究センター) 第12号, 1-13.
4. 寺田盛紀(2016) 「成熟社会」における職業教育—職業教育の研究と政策へのアプローチ—, *職業とキャリアの教育学*, 第21号, 1-13.
5. Moriki Terada (2015) Vocational Education in a “Mature Society” of Japan. *Journal of Asian Vocational Education and Training* Vol.8, No.1, 13-22 (査読).
6. 寺田盛紀・イーサンミン・石嶺ちづる・清水和秋(2015) 大学生の職業的資質形成に関する国際比較研究—日本・アメリカ・ドイツの4大生と短大・職大生の比較—, *生涯学習・キャリア教育研究* 第11号, 33-45.
7. TERADA, Moriki / POPOVICH, Jacob / LEE, Myung-Hun / NA, Seung-Il (2014) International Comparative Study on the Structure and the Formation of Vocational Competencies for Vocational College Students: Japan, USA and South Korea. *Proceedings of 10th Conference of Asian Academic Society of Vocational Education and Training (AASVET)*, Tokyo, 2014.10.20., 112-118.
8. (イーミョンフン), (イーサンミン), _____ (寺田盛紀) (2014): _____, _____, _____, _____, _____, _____ (大学生のキャリア認知・キーコンピテンシー・職業観),

(大韓工業教育学会)

誌) 第39巻第2号, 2014.9, 58-80 (査読)

9. 寺田盛紀・Lee Myung-Hun・Krähe Harald (2014) 高校生の職業観形成に対する教育・生活活動の作用に関する比較研究—日・独・韓3か国における高校3年生の生活時間の事例調査結果から— *生涯学習・キャリア教育研究* 第10号, 1-9.

[学会発表](計6件)

1. 寺田盛紀・山本理恵・菊池美由紀(2016) 4年制大学生の職業基礎力と職業観の縦断的及び横断的研究 日本、アメリカ、韓国、ドイツ 日本キャリア教育学会第38回大会(札幌大谷大学), 2016年10月16日.
2. Moriki Terada (2015) **Keynote speech.** Vocational Education in a “Mature Society” Japan. The 11th AASVET International Conference in 2015 at East China Normal University in Shanghai. October 25, 2015.
3. 寺田盛紀(2015) 実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する論点と私の高等教育観, 日本産業教育学会第56回大会シンポジウム「高等教育段階の職業教育」での報告. 2015.10.17, 和歌山大学.
4. 寺田盛紀・イーサンミン・石嶺ちづる・清水和秋(2014) 大学生の職業的資質と職業観の形成に関する国際比較: 日本・アメリカ・韓国・ドイツの4大生と短大・職大生, 日本キャリア教育学会第36回大会, 2014年11月23日, 琉球大学.
5. 李明薰・Jack Popovich・菊田薫・寺田盛紀(2014) 専門大学・専門学校生の職業能力と職業観の形成 - 韓国・日本・アメリカの3か国比較 -, 日本産業教育学会第55回大会, 2014年10月20日, 大東文化大学.
6. TERADA, Moriki / POPOVICH, Jacob /

LEE, Myung-hun / NA, Seung-il (2014)
International Comparative Study on the
Structure and the Formation of Vocational
Competencies for Vocational College
Students: Japan, USA and South Korea.
*Proceedings of 10th Conference of Asian
Academic Society of Vocational Education
and Training (AASVET)*, Tokyo,
2014.10.20. In the Proceedings 112-118.

〔図書〕(計 1 件)

寺田盛紀(2016) キャリア教育論 若者のキ
ャリアと職業観の形成 , 学文社(第 2 刷), 185
頁, (2014 第 1 刷)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺田盛紀 (TERADA, Moriki)
岡山理科大学・工学部・教授
研究者番号：80197805

(2) 研究分担者 (5 名)

新谷康浩 (SHINTANI, Yasuhiro)
横浜国立大学・教育人間学部・准教授
研究者番号：80551655

坂本将暢 (SAKAMOTO, Masanobu)
愛知工業大学・工学部・准教授
研究者番号：20536487

清水和秋 (SHIMIZU, Kazuaki)

関西大学社会学部・教授

研究者番号：40140248

山本理恵 (YAMAMOTO, Rie)

京都学園大学・教育開発センター・講師

研究者番号：50787877

石嶺ちづる (ISHIMINE, Chizuru)

国際学院短期大学・幼児教育学科・講師

研究者番号：80551655

(3) 連携研究者

(0)

研究者番号：

(4) 研究協力者

(0)